

## 解答

- 問一 ①（オ） ②（キ） ③（イ） ④（ウ） ⑤（カ）
- 問二 （右から）奈緒、千夏、行雄、健斗
- 問三 おかあさんとおとうさんとほくの三人で、おばちゃんの家泊まることきつかけとなり、おとうさんとおかあさんが仲直りするかもしれないと期待したから。
- 問四 おかあさんが、おとうさんは初めからおばあちゃんの家にくるつもりはないと考え、自分や健斗にウンをついたのではないかと疑ったこと。
- 問五 おばあちゃんの意識がもどり、もう一度、お茶をたててもらいたいという気持ちを、おかあさんに言い当てられて照れくさかったから。
- 問六 子どものころは、おばあちゃんとても仲が悪く、反発していた千夏おばさんが、おばあちゃんと仲良くしていたおかあさんと同じきもちで看病をしてあげることがわかったから。
- 問七 ケントウ…検討 マコトに…誠（真、実） ヘンシュウ者…編集 ショチ…処置  
カイフク…回復 オン着せがましい…恩

## 解説

- 問三 前の部分から、おとうさんとおかあさんがケンカをしており、運動会がある来週の土曜までには、仲なおりをしてほしいという「ぼく」のきもちがわかります。そのため、三人でおばあちゃんの家泊まったら、もしかしたら仲なおりできるかもしれないと「ぼく」が期待して、ウキウキしたことが考えられるので、これらの内容をまとめて書き表します。
- 問五 少し前にある、おかあさんと千夏おばさんのやりとりから、二人の気持ちが読み取れます。おばあちゃんの意識がもどりそうにないので看病できるとおもったと話す千夏おばさんに対して、おかあさんは「そんなこと言っても、お姉ちゃんはおかあさんにもう一度、お茶をたててもらいたいんじゃないの」と言っています。枕もとの竹の筒に気づいたおかあさんに、自分の本心を見ずかされたように思っ「てきとうにえらんだだけ」と弁解していることから、千夏おばさんの照れくさい気持ちを、設問の指示に従って説明します。